



創業
75
周年

\\ 特集 //
歴史が導く
未来成功の鍵

高松帝酸株式会社

高松市朝日町5丁目14番1号

「TEL」0877822252222

「FAX」087782224885

製造業・医療機関向けのガス・機械・消耗品販売を主業とする高松帝酸。仏企業の日本法人で業界の知見を深め、2008年からは同社でキャリアを磨いて23年に社長に就任した太田貴也さんに、これまでとこれからを語っていただきました。



ホームページ



代表取締役社長
太田 貴也 さん

技術力×人間力で
最前線を切り拓く

同社の強みは、高圧ガスを扱うノウハウと機械設計の技術を併せ持つことです。独自のエンジニアデザインに重点を置き、自社設計の「日本 世界にオンリーワン」の機械も多数生み出してきました。

「市販されていないものをゼロから組み上げる力が、当社の価値」と、代表取締役社長の太田貴也さん。現在の会社規模を「小規模ラボと大企業の間」と位置づけ、「資本力・ステークホルダーとの関係・技術力のバランスがちょうどよく、意思決定もシンプル。積極的に概念実証に取り組み、業界が進化していく最初のハードルを越えるところを担いたい」と意気込みます。

製造業向けの機械は複数のメーカー製品をシステム構築により組み合わせ、付加価値を付けて販売。エンジニアリングを内製化し、設計、調達、施工、保守をワンストップで提供しています。医療分野では人間に不可欠な酸素ガスの供給を担い、国立大学病

は物理学を修め、カラクリ好きで『ないものはつくればいい』と考えるのは血筋かもしれません」。

次世代エネルギーの
普及に貢献したい

技術力で業界の最前線を切り拓く同社の新たな取り組みとして、2017年、香川初の水素ステーションが完成しました。水深8200㍓と同程度の圧力をかけて水素を圧縮・貯蔵する機能を持っています。

「脱炭素の機運が高まり、水素ステーションの注目度も上がってきました。『できます・やります』以上に、『もうできています・すでに』

院や県立中央病院をはじめ、四国の医療機関に対して配管工事の設計・施工管理・メンテナンスを手掛けています。

在宅医療や在宅医療用ボンベの提供も1990年ごろから始めました。四国に本社を置く企業として時には県外の同業他社とも連携。手厚いユーザー向けサポートを行ってきました。「技術・サービス・ホスピタリティ、すべては人間が鍵」という太田さんの人材育成が支えています。

「カラクリ好き」の血を
受け継いで技術力を深めた
1990～2000年代

1902年にフランスで空気を液化する方法が発明され、産業用ガスを扱うエア・リキッド社が誕生。明治時代に政府が同社を招聘して「帝国酸素」を設立し、日本で初めて酸素をつくる事業が始まりました。

高松帝酸は1950年、四国における帝国酸素のガス製造拠点として、太田さんの曾祖父が立ち上げた「高松酸素」がルーツです。材木業、塩田業を経て、塩田跡地で帝国酸素の設備を借り

受けてスタートしたそう。当初はフランスの技術でつくったガスを販売店に卸す「充てん・卸売」がメインでしたが、技術が進歩して液体酸素状態でのコンビナートからの直送・直販が主流となるにつれて、機械販売でニーズの拡大を図るようになります。

太田さんの父・賀久さんは「モノよりコト」を掲げ、単に製品を売るだけでなく、顧客の快適なビジネスを支える技術そのもののトータル提案に力を入れました。1990年代には営業開発部を創設し、「売上にとらわれず、ガス以外で顧客に響くものを見つけよう」と大胆な新規分野の開拓に乗り出したことから、商社機能も拡大。2000年に設立した「フッ素ガス研究センター」、製造業や教育研究機関向けのセミナー「テクノポリス」や技術展示会など、技術情報の探求と提供を広く進めてきました。

「エンジニアリングの内製化を重視する今の社風も、そのあたりに端を発していると思います」と太田さん。「曾祖父は壊れた製材機械を爪楊枝1本で直した、とも聞きます。父は機械工学、私

太田社長の モーニングルーティーン

朝の時間帯

- 7:30 起床
- 7:50 シャワーなどの身支度
- 8:10 家を出る
- 8:25 会社に到着

最寄りのJR駅で特急が発車すると同時に家を出て、中央通りは流れのスムーズな右寄り車線を選び、混雑する美術館通りは避けてリーガホテルの角を曲がったら、あとは会社まで信号がありません。朝食を抜いてでもギリギリまで寝たい私が最短で8時30分の始業に間に合う、理想かつ不動のルートです。

「顧客のビジネスを支える我々も、強力なサプライヤーとして強くななくては。エネルギーとして水素が普及する時代になれば、設備設計やメンテナンスを含めてきつと役立てることがあるはず。縁の下の力持ちとして知見を磨き、さまざまな業界と連携しながら、これまで培ったガスのノウハウを発揮したい」と語っています。